

重点取組分野	平成28年度		総括	重点取組分野	平成29年度		総括	重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①授業で身に付けたい力に適した言語活動(説明、報告、記録、対話、討論など)を位置付け、主体的な問題解決的な学習の中で、自分の考えを表現、交流しながら、力を付けることのできる授業を行う。②ICTを活用し、自分の考えを表現したり、発表したりする授業を発達段階に応じて意図的、計画的に行う。	①国語科の授業研究を中心に授業改善に取り組み、子供の実態から指導事項を具体化し、ねらいを明確にした授業づくりが進んできた。教育課程編成の視点から教科領域等を横断した授業づくりにより、子供の主体性が発揮される授業となってきた。②ICTを活用した授業づくりに努めた。今後は、学年等での連携を図る必要がある。	B	確かな学力	①授業で身に付けたい力に適した言語活動(説明、報告、記録、対話、討論など)を位置付け、主体的な問題解決的な学習の中で、自分の考えを表現、交流しながら、力を付けることのできる授業を行う。②各教科の見方・考え方を働かせる授業を意識し、教科横断的な視点で授業づくりに取り組んでいく。	言語活動と指導事項の繋がりにより、確かな学力の定着が進んだ。自ら問いをもち、その解決に向けてどうしたらよいか、自分の意見をもち友達と交流して多様な見方や多面的な見方に触れ、考えを広げたり深めたりしている場面が増えた。様々な教科と関連させながら学習を進めたり、汎用的な視点で指導の手立てを考えたりすることで、学	A	確かな学力	c5子供の考え・思いの整理・焦点化をすることや思いと活動のバランスを考えながら進めていくことがさらに必要となる。また、言語活動のさらなる充実を図るためには、子供が自らの言葉に着目し、語彙を増やしていくことが必要となる。教師がどのような言葉を使わせたいのか明確にし、授業づくりを進める必要がある。		
豊かな心	①異学年の触れ合いを通して、上学年は下学年を思いやり、下学年は上学年にあこがれをもつことができるように、ペア学年の活動を充実させる。②自ら進んであいさつする姿を認め、学年に応じた取り組みにつなげていく。③よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、各教科等における道徳教育と道徳科との関連を図りながら計画的に指導する。(年間指導計画の改善)	①前年度までの児童委員会による活動をペア学年を意識した取り組みにしたり、ペア学年で交流したりしてきた。さらに、無理なく計画的に取り組むことが必要。②児童委員会によるあいさつ運動を行い啓発に努めた。日常につなげたい。③各教科と関連を意識できるように、年間カリキュラム作成し取り組んできた。さらに計画的に行えるよう	B	豊かな心	①異学年の触れ合いを通して、上学年は下学年の機会をもつことはできなかったが、1.6年以外では充実とまではいかなかった。②全体的に見ると、まだ進んであいさつを行えない児童もいるが、高学年の挨拶運動を通して、挨拶についての意識が高まってきたともいえる。③学習習を基に関連を図りながら取り組んでいる。(年間指導計画の改善)	①異学年交流については、昨年度より交流の機会をもつことはできなかったが、1.6年以外では充実とまではいかなかった。②全体的に見ると、まだ進んであいさつを行えない児童もいるが、高学年の挨拶運動を通して、挨拶についての意識が高まってきたともいえる。③学習習を基に関連を図りながら取り組んでいる。(年間指導計画の改善)	B	豊かな心	①異学年交流を計画的に位置づけて、更に、充実した取り組みになるようにしていく。②自分から進んであいさつをする児童を育てる。(日常の指導や、挨拶運動と道徳の「礼儀」の学習を関連させて)③よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、カリ・マネ要領道徳科編「第3章 道徳科9年間で育成を目指す資質・能力一覧表」、「第4章 内容項目別資質・能力系投票」を活用し、道徳教		
健やかな体	①食についての理解を深め、自らの行動について見直していけるように、学年で給食目標の共通理解を行い、具体的な方策を決めて、学級活動で取り組む。②縄跳び運動を軸として、外遊び推進デイをより活性化させ、子どもが進んで運動に取り組めるようにする。	①教科や学級活動の中で食育に取り組んできたが、残食は昨年より多くなっている。知識や理解を食べる意欲につなげる必要がある。②運動委員会が縄跳びカードを作成して全校に配付したり、短縄集会や長縄集会を企画したりと、縄跳びに親しめるよう努めた。長縄集会では、今年度、なかよし学年と交流の機会をもち、教えあう場を設	B	健やかな体	①食についての理解を深め、自らの行動について見直していけるように、学年で給食目標の共通理解を行い、具体的な方策を決めて、学級活動で取り組む。②縄跳び運動を軸として、外遊び推進デイをより活性化させ、子どもが進んで運動に取り組めるようにする。	外遊び推進デイの取り組みは全校に浸透し、週に一度は運動する習慣がついている。遊び方も運動委員会児童を中心に発信している。	B	健やかな体	②「リズムジャンプ」を年間通して行っていく。発達段階に応じて、技も紹介し、定期的に行える取り組みとして定着させていく。		
特別支援教育	①1時間の流れがわかる「見通しボード」、可動式の「今日・明日の時間割ボード」を全学級で活用し、ユニバーサルデザインの考え方を元に、わかりやすい教室環境を整える。②支援を要する児童の特性から具体的な支援につなげるアセスメントシートの作成、実現可能な個別の指導計画の実践・評価を行う。③個別支援学級と通常の学級との連携を深める。	①「見通しボード」「今日・明日の時間割ボード」を全学級で活用し、教室環境を整えるよう意識が浸透した。継続が肝要。②アセスメントシートの作成、個別の指導計画の実践・評価を行えるよう努めた。卒業まで積み重ね活用していく。③交流学年では連携できたが、交流のない学年との連携が課題。共生や理解を促す機会が必要。	B	特別支援教育	①1時間の流れがわかる「見通しボード」、可動式の「今日・明日の時間割ボード」を全学級で活用し、ユニバーサルデザインの考え方を定着させ、学習や生活の見通しをもちやすい教室環境を整える。②支援を要する児童の特性から具体的な支援につなげるアセスメントシートの作成、実現可能な個別の指導計画の実践・評価を行う。③個別支援学級と一般学級の交流・連携を深める。	児童が見通しをもちやすく分かりやすい授業を心掛けた。ユニバーサルデザインの考え方を大切に環境づくりを実践した。支援を要する児童の実態把握をチームアセスメントにより丁寧に行い、より具体的な個別の指導計画を立て実践・評価に努めた。また、学年行事等の機会に個別支援学級と一般学級の交流・連携に取り組んでいく。	B	特別支援教育	①「見通しボード」、「今日・明日の時間割ボード」を全学級で活用し、ユニバーサルデザインの考え方を定着させ、学習や生活の見通しをもちやすい教室環境・授業を持続させる。②支援を要する児童の特性から具体的な支援につなげるアセスメントシートの作成、実現可能な個別の指導計画の実践・評価を行う。③個別支援学級と一般の学級との連携を深め、交流を図る。		
児童指導	①「港北スタンダード」を基に、教職員が一体となり、ユニバーサルデザインの視点を意識しながら、わかりやすく、一貫した指導を行う。②生活目標を活用し、児童が目指したい姿を具体的に示し、学校生活を送れるようにする。③職員会議内に児童理解の内容を定例化させ、配慮を要する児童について共通認識をもちながら、対応できるようにする。	①全教職員が「港北スタンダード」を基本とした指導をしたため、共通する目指す姿があり、わかりやすく、一貫した指導を行うことができた。②生活目標を各学級で決めることで、一人ひとりが意識して生活できるようになってきた。③全教職員で情報を共有しながら、一貫した指導を行うよう意識した。	B	児童指導	①「港北スタンダード」を基に、教職員が一体となり、ユニバーサルデザインの視点を意識しながら、わかりやすく、一貫した指導を行う。②生活目標を活用し、児童が目指したい姿を具体的に示し、学校生活を送れるようにする。③職員会議内に児童理解の内容を定例化させ、配慮を要する児童について共通認識をもちながら、対応できるようにする。	教職員が共通理解のもと児童指導に当たることの大切さをもち、取り組んできた。誰もが分かりやすく、一貫した指導を心がけてきている。配慮児童については、必要に応じて全体に知らせ、共通認識をもつよう努め、対応してきた。生活目標は、その月に合った目標を立て、月末には振り返りをして規律のある生活ができるようにした。	B	児童指導	①「港北スタンダード」を基にして適時確認することにより、全教職員が一貫した児童対応ができるようにする。ユニバーサルデザインの視点を意識しながら、わかりやすく、一貫した指導を行う。③職員会議内に児童理解の内容を定例化させ、配慮を要する児童について共通認識をもち、同様の指導、支援をしていくようにする。必要に応じて組織を立ち上げ、対応できるようにする。		
地域連携	①「まちの先生」として授業に参加していただくなど地域人材の安定的活用を図り、計画的に教育活動を進めるとともに、地域コーディネーターと連携し、活動内容を工夫して実践する。②HPの内容を定期的に見直し、学校の様子が伝わるように発信の工夫をし、教育活動理解の手立てとする。	①地域の方々に「まちの先生」として積極的に授業に参加していただくことができた。地域コーディネーターとも連携し、子どもたちに合った活動内容を考えて実践できた。②便りやHPの発信の工夫はできたが、HPの古い内容を更新できていないものがあった。定期的な見直しが必要である。	B	地域連携	①「まちの先生」として授業に参加していただくなど地域人材の安定的活用を図り、計画的に教育活動を進めるとともに、地域コーディネーターと連携し、活動内容を工夫して実践する。②HPの内容を定期的に見直し、学校の様子が伝わるように発信の工夫をし、教育活動理解の手立てとする。	「まちの先生」に入っていたり、体験したり経験や聞いたりすることができた。地域の方も協力的に積極的に関わってくれている。全部の学年が関わることができていない。なるべくすべての学年の学習に関わるような工夫が必要になると感じた。	A	地域連携	①「まちの先生」として授業に参加していただくなど地域人材の安定的活用を図り、計画的に教育活動を進める。なるべく全学年が関われるようなカリキュラムを作成していく。地域コーディネーターと連携し、活動内容を工夫して実践する。		
人材育成・組織運営	①メンター研修会を月一回定期的に計画し、ミドルリーダーを中心に活動を継続して行う。②授業研究会をテーマに即した主張をもって行い、実践を積み重ねて授業力、指導力を高める。③定期的な、或は必要に応じての教務会や学年主任会を行い、それぞれの部署の中心となる職員が全体を見直し、共通理解のもと学校運営に携わるようにする。	①メンター長を中心に組織的に取り組んでいた。月一回以上のメンター研修会の中で、様々な活動に取り組む。②学年で教材研究、指導案検討を重ねることで主張をもって授業を行うことができた。③十分とは言えないが、職員の連携は取れている。	B	いじめ防止	①学年担任の繋がりを密にし、情報を共有しながらチームとして学年児童全体の様子を把握し指導や支援を行っていく。②児童指導部や職員会議の場で職員全体で情報交換をして、児童一人ひとりの状況や特性に応じた一貫した指導や支援を行っていく。③道徳の授業を中心に、違いを認め自分や友達を大切にしていこうとする心情を育てる。	学年内の情報交換を常に行い、担任がチームとして学年児童全体の様子を見てきた。必要に応じて専任、養護、専科、管理職等も加わり様々な立場から指導、支援に取り組んできた。会議等で情報交換をし、共通認識のもと児童の状況や特性に応じた指導、支援を心掛けてきた。アンケートやYPAアセスメントの取り組みを通して情報の収集や	B	いじめ防止	①学年担任の繋がりを密にし、情報共有して学年児童全体の様子を把握し指導や支援を行っていく。②児童指導部や職員会議の場で職員全体で情報交換をして、児童一人ひとりの状況や特性に応じた一貫した指導や支援を行っていく。③道徳の授業、横浜プログラム、アンケート、YPAアセスメント等を活用し、違いを認め自分や友達を大切にしていこうとする心情を育てると共に、未然防止に		
人材育成・組織運営	①メンター研修会を月一回定期的に計画し、ミドルリーダーを中心に活動を継続して行う。②授業研究会をテーマに即した主張をもって行い、実践を積み重ねて授業力、指導力を高める。③定期的な、或は必要に応じての教務会や学年主任会を行い、それぞれの部署の中心となる職員が全体を見直し、共通理解のもと学校運営に携わるようにする。	①メンター長を中心に組織的に取り組んでいた。月一回以上のメンター研修会の中で、様々な活動に取り組む。②学年で教材研究、指導案検討を重ねることで主張をもって授業を行うことができた。③十分とは言えないが、職員の連携は取れている。	B	人材育成・組織運営	①メンター研修会を月一回定期的に計画し、ミドルリーダーを中心に活動を継続して行う。②授業研究会をテーマに即した主張をもって行い、実践を積み重ねて授業力、指導力を高める。③定期的な、或は必要に応じての教務会や学年主任会を行い、それぞれの部署の中心となる職員が全体を見直し、共通理解のもと学校運営に携わるようにする。	①メンター研修会では、校内ミドルリーダーを講師に迎え、多彩な研修を行った。②授業研究会について、授業づくりと共に、教育課程、特別支援、授業研究、教材研究の4つの視点からも研究を進めた。オールキャリアで取り組み、それぞれのキャリアに応じた育成が行われた。③教務会、スタンドの学年主任会は定例化し、情報が確実に	A	人材育成・組織運営	①メンター研修会を月一回定期的に計画し、ミドルリーダーを中心に活動を継続して行う。②授業研究会及びテーマ別の研究会を行い、新学習指導要領に沿った資質・能力を育成する授業について、視点に沿って実践を積み重ね、授業力を高める。③組織としての機能を高め、各部署との連携をとれるようにする。定期的な、或は必要に応じての教務会や学年主任会を行い、全体を見直し、共		
ブロック内相互評価後の気付き	ブロックとして共通の取り組みの視点をアンケート項目にし、相互評価を行った。小学校授業研究会港北小学校部会では、「わかる・できる」子供の姿、「つまずき」をとらえる教師の目、「夢中で取り組む」子供の姿がそれぞれ見られたと意見をいただいた。そして、本校独自の取り組みである「見通しボード」に対して、よい取り組みであると評価された。ソフト面だけでなく、ハード面である集中して授業に向かうための環境のスタンダードづくりにも、さらに力をいれていきたい。小中一貫教育担当者会議を年間3回ほど行い、スケジュールの調整だけでなく、スタンダードの確認や校務分掌の情報交換ができたことは価値があった。		ブロック内相互評価後の気付き	「地域活動や奉仕活動にも積極的に関わりたい子どもへ響きあう心、生きる力にあふれる子・健康でかかやく子・チャレンジする子」を篠原中学校ブロックの小中一貫教育のテーマとして取り組んできた。重点取組の一つ目学力観・指導観・評価観の共有につきまちは、小中合同授業研究会を年2回行い、9年間を見通した指導観や評価についても話し合うことができた。二つ目の児童・生徒の交流については、港北小全体が篠原中に行かないという実態があり難しいものの、中学国語教員の出前授業や生徒会が小学校にて紹介する時間を取るなど交流できた。職員間の情報交換がしやすくなったことは成果であるが、もう一歩踏み込んだ連携の在り方を考えたい。		ブロック内相互評価後の気付き					
学校関係者評価	それぞれの取り組みを教師や職員はよくやっているという評価をもらっている。「まちの先生」として各学年に関わることで、子ども達が意欲的に活動している姿が見られ、親しさも増すことができる。学校と地域が連携して子ども達を育てている実感があふれている。学校で地域と関わりのある活動を今後も続けていけるとよい。地域での行事については、各地域によって参加の様子が違っているが、もう少し呼びかけをして積極的に子ども達が参加できるようにしていきたい。		学校関係者評価	地域行事への児童の参加が少しいはるが、増えている。学校と保護者、地域が一体となって子どもの成長を見守ることができている。地域拠点防災訓練を学校の課業時間内に一緒に行ったことや、学援隊の方と触れ合う機会を作ったことは、地域の人の思いを知ることができ、よかった。防災意識の向上は学校と保護者、地域の協力が不可欠である。今後も充実させていきたい。各学年がそれぞれ、まちの先生とともにつくる授業を計画的に行っていることが素晴らしいので、地域の方の協力を得て、継続させていきたい。		学校関係者評価					
学校経営中期取組目標振り返り	国語を中心に、子どもが主体的に取り組める学習計画や授業展開を研究してきた。徐々に主体性が育成されてきて、子ども自らが学習を進めていくことができるようになってきている。進める中で、より深い学びができるようになっていく。多くの保護者や地域の人材を必要あるいは意図的に活用し、深く広い学びをすることができている。地域の方に触れ合うことにより子どもは親近感を持ち、地域への愛着を深めてきている。生活習慣における挨拶や返事については課題が見受けられる。どこでも誰に対しても気持ちの良い挨拶や返事が自然とできるようにしていけるような手立てを考えていきたい。		学校経営中期取組目標振り返り	「社会に開かれた学校」に向けて、地域社会及び未来社会に開いていく学校として、日々の授業、学校行事、地域行事が連携して進み始めることができた。2年後の70周年に向けて着実に実績を積み上げていきたい。基礎・基本の定着については横浜市学力・学習状況調査などから分析すると定着してきているが、引き続き取り組んでいきたい。次期学習指導要領を目指し、資質・能力を育成する授業について、学校創り研究会(重点研)との運動を図り、研究を進めてきた。言語能力や問題発見解決能力など学校として軸とする資質・能力を共有し、今後も研究を進め、教育課程編成を進めていきたい。		学校経営中期取組目標振り返り					